

横浜市ウェブサイト再構築に向けた 情報提供依頼書（R F I）

令和8年6月

横浜市政策経営・国際戦略局広報・プロモーション戦略課

1 本書の目的・位置づけ

本書は、横浜市ウェブサイト（以下、「本市サイト」という。）の CMS 刷新を伴う再構築の方向性を検討するにあたり、広く情報提供を受けることを目的とする情報提供依頼書（以下、「RFI」という。）です。提出された情報は、今後の再構築の方向性を検討するための参考資料として活用します。なお、本 RFI への回答内容は、将来の入札参加や評価に直接影響するものではありません。また、本 RFI の実施をもって、本市が調達を行うことを約束するものではありません。

2 背景・概要

本市では、2018 年度に本市サイトの再構築を行い、CMS 刷新、デザインの見直し、オープンデータ連携、アクセシビリティ対応等を実施してきました。その後も、デザインリニューアル、サーバー OS 更新等、必要な改修を継続してきました。

一方で、前回再構築から一定期間が経過し、災害時の継続性、外部サービス（他システム、他サイト）との API 連携、運用保守・サーバー OS 更新等のランニングコストの最適化等、中長期的に検討すべき論点が生じています。また、近年は、生成 AI の普及など、ウェブサイトを取り巻く環境が大きく変化しています。特に、現行システムは 2028 年度にサーバー OS 更新が必要であり、それに伴い新環境への移行等の作業が発生することが想定されます。

このため、本市では、当該 OS 更新の時期を一つの契機として、CMS 刷新、クラウド移行、OSS（オープンソースソフトウェア）活用等を含め、今後の方向性を検討する必要があると考えています。

本 RFI では、こうした背景を踏まえ、本市サイトの規模や運用実態、課題に適した CMS、システム構成、移行方法、将来的な拡張性、また開発にかかる費用感やスケジュール感等について把握するため、情報提供を依頼します。

3 対象範囲

本 RFI の対象は「<https://www.city.yokohama.lg.jp/>」配下のウェブサイトであり、CMS により管理されているページを対象とします。

また、本市サイトのデザインについては、原則として現行デザインを踏襲する想定です。ただし、CMS 刷新に伴う軽微な変更、将来的な JIS 規格（JIS X 8341-3）の改正に伴うデザイン変更等は想定しています。

4 前提情報

本章では、本 RFI に回答する際の前提として、本市サイトの現状・課題・今後検討したい事項を整理します。以下の前提情報を踏まえたうえで、後述の「5 情報提供を依頼する事項」にご回答ください。

(1) サイト規模・コンテンツの状況

ア 現状

(ア) ページ数・階層

現行サイトの公開ページ数は、2025 年度時点で概ね以下の規模です。

- ・ コンテンツページ：約 55,000 ページ
- ・ インデックスページ：約 17,000 ページ
- ・ 合計：約 72,000 ページ
- ・ 公開ページの最大階層：10 階層

コンテンツページは、テキストや画像、PDF などの添付ファイルで構成される、職員が CMS 上で作成・更新するページです。インデックスページは、コンテンツを公開した際に自動生成される目次・一覧ページです。

本市サイトは、長年にわたり多数の部署でページを作成・更新してきたことから、ページ数が多く、階層も深い大規模サイトとなっています。

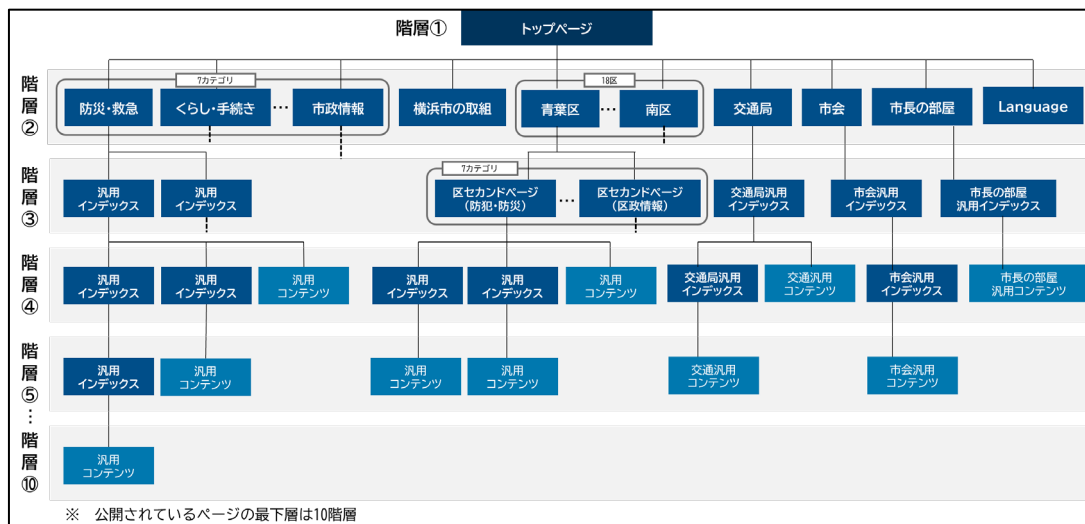
次期再構築を行う場合、すべてのページをそのまま移行するのではなく、移行前にページ精査、不要ページ削除、情報分類の見直し等を行うことを想定しています。

現時点では、コンテンツページ約 55,000 ページのうち、不要ページの削除やページ統合等により約 5,000 ページ程度を整理し、コンテンツページ約 50,000 ページ程度を移行対象とすることを一つの目安として検討しています。

インデックスページ約 17,000 ページについては、新 CMS において同様の目次・一覧ページが自動生成される構成となる場合、原則として移行対象外となる想定です。

ただし、実際の移行ページ数や移行対象範囲は、今後の情報分類見直しや CMS 製品・構成により前後する可能性があります。

図 4-1 本市サイトの構造イメージ



(イ) 特殊な機能を有するページ

また、現行サイトでは、検索、カレンダー表示等、特殊な機能を持ったページも一部存在します。これらは、コンテンツページとは別に、個別の改修等により実現しているものです。

個別の改修等により実現しているページの例は、以下のとおりです。

- ・ [イベントカレンダー](#)
- ・ [Q&A よくある質問集](#)
- ・ [プロポーザル等の発注情報の検索](#)
- ・ [事例検索](#)
- ・ [ピックアップ! 広報よこはま](#)

(エ) ヘッダー・フッター・テンプレートの構成

現行サイトでは、ページ種別や掲載場所に応じて、複数のヘッダー・フッター・テンプレートを組み合わせてページを作成しています。現行 CMS で用意している主なテンプレート等は、概ね以下のとおりです。

- ・ ヘッダー：約 66 種類
- ・ フッター：約 60 種類
- ・ コンテンツテンプレート：約 34 種類
- ・ インデックステンプレート：約 30 種類

各ページは、基本的に「ヘッダー」「本文（テキストや画像など）」「フッター」で構成されます。本文部分については、ページの種類や掲載場所に応じて、コンテンツテンプレートまたはインデックステンプレートを利用しています。

各課は、サイト管理者が掲載場所等に応じてあらかじめ設定したテンプレートの範囲内で、ページを作成・編集・公開しています。

また、テンプレートには、見出し、テキスト、画像等の本文部分の入力項目や部品が設定されており、ページ作成時に利用できる部品を組み合わせることでページを作成しています。

イ 課題・検討したい事項

本市サイトでは、ページ数が多く、階層が深いことや CMS の制約により、以下のような課題があります。

- ・ 市民にとって必要な情報を探しづらい場合がある。
- ・ 職員にとってページ管理、棚卸し、更新確認がしづらい。
- ・ ページ作成者の知識や経験により、アクセシビリティ、ユーザビリティ、SEO 等の品質に差が生じやすい。

ウ 期待する方向性

現行サイトと同程度の大規模ページを管理できることに加え、ページ数、階層、情報分類を適正化することで、市民が必要な情報を探しやすくするとともに、職員によるページ管理や棚卸しの負担を軽減できることを期待しています。

具体的には、以下のような方向性を検討したいと考えています。

- ・ 大規模サイトのページ管理、検索、一覧出力、棚卸しがしやすいこと。
- ・ ページ階層や情報分類の見直しに対応しやすいこと。
- ・ 専門知識がなくても、一定品質のページを作成しやすいこと。
- ・ スマートフォン表示を前提とした入力・プレビューが可能であること。
- ・ アクセシビリティ、ユーザビリティ、SEO 等に配慮した入力支援・チェック機能があること。
- ・ 検索、カレンダー、FAQ、イベント情報等の機能を、個別改修に過度に依存せず実現しやすいこと。
- ・ インデックスページについては、コンテンツ公開時に目次・一覧ページとして自動生成される仕組みがあること。

(2) 現行運用の概要

ア 現状

(ア) 分散運用・権限管理

本市サイトは、約 700 部署でウェブページの更新や公開を行う分散運用を前提としています。現行 CMS では、複数の ID 種別を用いて、ページ作成、承認、管理等の権限を制御しています。主な ID 種別は以下のとおりです。

表 4-1 現行 CMS の ID 種別と役割

IDの種類	部署	役割(権限)	件数
ページ作成者 ※課単位	所管課職員	ページの新規作成・更新・公開	約 700
ページ承認者 ※課単位	所管課係長・課長	ページの公開承認	約 700
区サイト管理者 ※区単位	区政推進課広報相談係	区トップページ更新、区サイトの管理	18
局サイト管理者 ※局単位	局総務担当課または企画担当課 (交通局システム推進課、議会局秘書広報課)	(交通局・議会局のみ)局トップページ・更新局サイトの管理	28
サイト管理者	政策経営・国際戦略局広報・プロモーション戦略課	市トップページ更新、CMS・サーバー等の管理、サイト構成変更(ページ移動など)、ログイン ID 権限管理、バナー広告掲載	1
報道	政策経営・国際戦略局報道課	記者発表ページの管理・公開承認	1
防災・危機管理	防災・危機管理統括本部	災害関連の緊急情報の掲載	1
図書館	中央図書館企画運営課	緊急時に中央図書館が区図書館の更新を承認	1

(イ) 組織情報管理・承認ワークフロー

課単位で ID を発行しています。問合せ手段を提供するため、ページには、所管課の電話番号、メールアドレス等の組織情報を掲載しています。また、所管課ごとに作成・更新できるページ範囲を制御しており、市の組織改編時には、組織情報の変更やページの所管課変更も実施しています。

主な承認経路は以下のとおりです。

表 4-2 現行 CMS の承認経路

名称	承認経路
通常	ページ作成者→ページ承認者
報道発表	ページ作成者→ページ承認者→報道
緊急	緊急用
図書館	ページ作成者（区図書館職員）→施設承認者（中央図書館）

(ウ) サイト調査・品質管理

本市では、サイト品質の維持・向上や、公開情報の管理を目的として、次のサイト内調査を行っています。

現行運用で重要度が高い調査項目は以下のとおりです。

- ・ サイト構成図
- ・ ページ一覧（所管課、公開期間を含む）
- ・ リンク情報（内部リンクの疎通状況を含む）

イ 課題・検討したい事項

分散運用や組織情報管理、品質管理などの現行運用については、次期 CMS においても現行同等以上の水準で利用できることを確認したいと考えています。

ウ 期待する方向性

ユーザー管理、権限管理、組織情報管理、承認ワークフローについては、組織の規模の大きい本市においては、重要度の高い機能と考えています。

そのうえで、以下のような方向性を検討したいと考えています。

- ・ 約 700 部署による運用に対応できること。
- ・ 複数の ID 種別・権限を設定できること。
- ・ 所管課単位、区局単位、サイト全体等、階層的な権限管理ができること。
- ・ ページ作成者、承認者、管理者等の役割に応じて操作範囲を制御できること。
- ・ 所管課単位で問い合わせ先等の組織情報を管理できること。
- ・ ページ上にページ編集課の連絡先を自動表示できること。
- ・ 組織改編時に、CMS に登録されている組織情報の変更やページに紐づく組織の変更、連絡

先の自動更新などに効率的に対応できること。

- ・ 報道発表、緊急、図書館等、現行の特殊な承認経路に相当する運用ができること。
- ・ 承認状況の確認、承認の差戻し、公開予約等の管理ができること。
- ・ サイトの情報分類や階層構造を把握しやすい調査機能を利用できること。
- ・ 長期間更新されていないページ、公開期限切れのページ、古い情報等を把握し、ページ棚卸しや不要ページ整理に活用できる調査機能を利用できること。
- ・ リンク切れやリンクの棚卸しを行うため、リンク一覧等の調査機能を利用できること。
- ・ 操作に不慣れな職員でも使いやすいUI であること。
- ・ 研修、マニュアル、FAQ 等により、職員のCMS 利用を支援できること。
- ・ ページと当該ページに添付されたファイルを一体的に管理し、ページ削除時等に不要な添付ファイルが残存しない仕組みであること。
- ・ ページ URL 又はページのファイル名について、CMS 利用者が指定できる仕組みであること。
- ・ YouTube、Google マップ等のウェブサービスについて、ページ内に埋め込み表示できること。なお、管理者が許可していないウェブサービスの埋め込みを制限できることが望ましい。

(3) 緊急時の情報発信

ア 現状

現行サイトでは、緊急時用に以下の運用を行っています。

- ・ 緊急時に全ページのヘッダーに緊急情報を表示する
- ・ 災害時等に、通信環境が不安定な状況でも閲覧しやすいテキストベースの軽量版トップページに切り替える

図4-2 緊急時情報発信のイメージ



▲全ページのヘッダーに表示できる緊急情報

▲通信が重くても閲覧しやすい軽量版トップページ

イ 課題・検討したい事項

市全体への一斉表示に加え、区や特定カテゴリ等、必要な範囲に応じて緊急情報を表示できる仕組みについても検討したいと考えています。

また、災害時や大量アクセス時においても、市民が必要な情報に継続してアクセスできるよう、システム停止が発生しにくい可用性を確保するとともに、万一障害が発生した場合にも、影響範囲を把握し、早期に復旧できる仕組みや運用体制が望ましいと考えています。

また、災害時にシステムが停止する事態になる場合は、早期にシステムを復旧する必要がある。

ウ 期待する方向性

現行サイトで実現している緊急時の運用は、引き続き必要であると考えています。

そのうえで、以下のような方向性を検討したいと考えています。

- ・ 全ページ共通で緊急情報を速やかに表示できること。
- ・ 災害時等に軽量なトップページに切り替えられること。
- ・ 通常運用に慣れていない職員でも、緊急時に分かりやすく操作できること。
- ・ 大量アクセス時にも緊急情報を安定して配信できること。
- ・ 区単位での緊急情報発信の必要性についても、将来的に検討しやすいこと
- ・ 災害時や大量アクセス時にも、市民が必要な情報に継続してアクセスできる可用性を確保できること。
- ・ 万一障害が発生した場合にも、影響範囲を把握し、早期に復旧できる仕組みや運用体制があること。

(4) 現行インフラ、CMS の概要

ア 現状

現行構成では、CMS サーバー、ウェブサーバー等をオンプレミス構成で構築しています。また、CDNについても別途サービスを利用しています。詳細なシステム構成図、性能要件等については、参加表明事業者にも別途提供する資料に示します。また、現行サイトはパッケージの CMS 製品（4 Uweb/CMS）を用いて構築・運用しています。

イ 課題・検討したい事項

現行のオンプレミス構成を維持する場合は、2028 年度にサーバーOS 更新が必要であり、それに伴い新環境への移行等の作業が発生することが想定されます。また、災害時、大量アクセス時、サイバー攻撃時等においても、市民が必要な情報に継続してアクセスできるよう、リソース確保、負荷対策、冗長化、復旧方法等について、オンプレミス構成とクラウド等を活用する場合の違いを比較検討したいと考えています。

加えて、CMS は長期にわたり運用するシステムであるため、将来的な機能追加、外部サービス連携、運用体制の変更、再構築等にも対応しやすい構成であることが望ましいと考えています。製品仕様、設定内容、カスタマイズ範囲、運用ドキュメント、データ出力方法等について、長期的な保守・運用のしやすさや将来的な見直しへの対応可能性を確認したいと考えています。

ウ 期待する方向性

以下の観点から、オンプレミス構成を継続する場合と、SaaS、PaaS、IaaS等を含むクラウド構成に移行する場合を比較検討したいと考えています。

- ・ 災害時の継続性
- ・ 障害時の復旧性
- ・ OS更新・ミドルウェア更新に係る負担
- ・ 保守運用負荷
- ・ セキュリティ対応
- ・ 監視、バックアップ、ログ管理、脆弱性対応の考え方
- ・ 運用体制・役割分担
- ・ 長期的な費用見通し
- ・ 将来的な保守・改修・移行の柔軟性

(5) その他の検討したい事項

ア API連携・外部連携

本市では、CMSと外部サービスとの連携を検討・実施することがあります。今後、生成AI、検索サービス、チャットボット、他システム連携等の活用を進めるためには、CMS内のデータを外部サービスが参照・活用しやすい構成であることが重要です。

そのため、以下のような方向性を検討したいと考えています。

- ・ 標準API、データエクスポート等により、外部サービスと連携しやすいこと。
- ・ 連携のたびに個別改修が少ないこと。
- ・ 外部サービスが活用しやすいデータ構造でデータエクスポートできること。
- ・ 将来的な機能追加やサービス連携に柔軟に対応できること。

イ 将来的な保守・改修・移行の柔軟性

CMSは、導入後も長期にわたり運用するシステムであり、制度変更、アクセシビリティ基準の改正、デザイン変更、外部サービス連携、組織改編等に応じて、継続的な保守・改修が必要となります。

そのため、導入時点の機能だけでなく、長期的な運用の中で、設定内容、カスタマイズ範囲、データ構造、運用手順等を適切に把握・管理できることが重要と考えています。

また、将来的にサイト運用やシステム構成を見直す場合にも、既存のコンテンツや運用情報を有効に活用できることが望ましいと考えています。

そのため、以下のような方向性を検討したいと考えています。

- ・ 仕様書、設定情報、運用ドキュメント等が整備され、必要に応じて第三者でも内容を把握しやすいこと。
- ・ 標準機能、標準API、広く利用されているモジュール・プラグイン等を活用し、長期的な保守・改修において内容を把握しやすく、継続的に管理しやすい構成であること。
- ・ OSS、標準機能、標準API等を活用し、特定の製品・技術・体制に過度に依存しない構成であること。OSS等を活用しない場合においても、他システムへの移行作業や引継ぎが容易であ

ること。

ウ 生成 AI 活用・市民向けサービスの高度化

近年、生成 AI を活用したページ作成支援、サイト内検索等のサービスが普及しつつあります。

本市サイトにおいても、今後、職員のページ作成支援や、市民向けの情報検索支援の観点から、生成 AI 等の活用可能性を検討する必要があります。

そのため、以下のような方向性を検討したいと考えています。

- ・ 職員向けに、チャット形式での入力や PDF の資料の読み込み等を通じて、ページの作成、要約、校正、アクセシビリティチェック等の AI 活用が可能であること。
- ・ 市民向けに、サイト内検索、FAQ 等との連携可能性があること。
- ・ AI サービスと連携する場合に、費用上限、ログ、権限管理、利用範囲の制御等を考慮できること。
- ・ AI による出力結果について、職員による確認・修正を前提とした運用が可能であること。
- ・ CMS 内のデータを、AI や検索サービスが参照しやすい形で管理できること。

5 情報提供を依頼する事項

以下の設問について、可能な範囲でご回答をお願いします。回答にあたっては、本市の前提情報、課題感、規模を踏まえたうえでご回答をお願いします。

(1) 本市の課題感に合致する CMS 製品・構成

ア 本市の課題感に合致すると考えられる CMS 製品およびシステム構成を、提示してください（複数提示可）。

イ 提示する CMS 製品・構成ごとに、以下を記載してください。

- ・ 本市の課題に合致する理由
- ・ 提示する CMS を導入した場合に改善できる事項
- ・ メリット、デメリット、留意点
- ・ 大規模自治体サイトへの適用可能性
- ・ 約 700 部署による分散運用への対応可能性
- ・ API 連携・AI 活用への対応可能性
- ・ 将来的な保守・改修・移行の柔軟性

ウ クラウドを活用する場合のメリット・留意点を提示してください（該当する場合）。

エ OSS 製品を活用する場合のメリット・留意点を提示してください（該当する場合）。

オ パッケージ製品を活用する場合のメリット・留意点を提示してください（該当する場合）。

(2) 初期費用・スケジュール

ア 本市サイトの再構築を行う場合の初期費用の概算費用を提示してください。その際、次の点に留意してください。

- ・各作業工程や CMS 利用料などの内訳を示してください
 - ・移行を想定しているページ数は約 50,000 ページを目安としています。可能であれば、1 ページあたりの移行費用の目安を提示してください。
 - ・本 RFI における再構築の範囲は、CMS の入替・構築、既存コンテンツの移行に加え、次期 JIS 規格改正を見据えたアクセシビリティ対応、サイトの情報分類見直し、テンプレート整理、必要なドキュメント作成等を含むものとして想定しています。
- イ 提示された CMS の構築から本番公開までのスケジュール感を提示してください。また、各工程の内訳をできる限り示してください。
- ウ 本市側で事前に実施すべき準備事項を提示してください。
例：ページ棚卸し、不要ページ削除、分類見直し、テンプレート整理、所管課調整等
- エ 初期費用の主な変動要因を提示してください。
例：移行ページ数、テンプレート数、添付ファイル数、外部連携数等。

(3) ランニングコスト

- ア 導入後の年額費用に含まれる一般的なサービス内容を提示してください。
例：CMS 利用料、クラウド利用料、保守、監視、問い合わせ対応、障害対応、バックアップ、アップデート、軽微改修等。
- イ 年額費用・運用保守費用の概算費用を提示してください。
- ウ ランニングコストの主な費用変動要因を提示してください。
例：ページ数、アクセス数、ユーザー数、監視範囲、CDN/WAF、AI 利用量、外部連携数等。
- エ 5年・10年の総費用で比較する場合の考え方を提示してください。特に、クラウド利用料、OS 更新費、バージョンアップ費、保守費、追加改修費等をどのように考慮すべきか示してください。

(4) 移行方法

- ア 現時点で本市が想定している移行元データは、HTML ファイル、画像ファイル、添付ファイル等の既存サイトから取得可能なファイル群が中心です。この前提を踏まえ、現行環境から次期 CMS へコンテンツを移行する場合に想定される具体的な移行手順を提示してください。
- イ 現行 CMS (4Uweb/CMS) 又は同種のパッケージ CMS からの移行、HTML ファイル等を用いた移行、約 50,000 ページ規模の大規模サイト移行等について、類似実績があれば提示してください。また、当該実績において発生した主な課題と、その対策手法を提示してください。
- ウ 約 50,000 ページ規模の大規模な移行において、移行漏れ、リンク切れ、画像・添付ファイルの欠落、レイアウト崩れ等を防ぐための効果的なテスト・検収方法を提示してください。

(5) 運用方法・保守体制

- ア 導入後の問い合わせ対応、障害対応、保守運用の一般的なフローを提示してください。
- イ 本市側と事業者側の役割分担を提示してください。
例：一次問い合わせ、CMS 操作支援、障害一次切り分け、障害復旧、原因分析、恒久対策、報告書作成等。

ウ CMS、OS、ミドルウェア、クラウド基盤等のアップデート対応について、一般的な考え方を提示してください。

- ・ 適用頻度
- ・ リリース方法
- ・ ロールバック
- ・ 事前通知
- ・ 利用者影響 等

エ 研修、マニュアル、FAQ等の職員向けのサポートについて、一般的な提供内容を提示してください。

(6) 安定稼働

ア 稼働率・可用性の考え方を提示してください。

例：SLA、冗長化等

イ 障害検知から復旧までの一般的な目安を提示してください。

ウ 監視、バックアップ、ログ管理、セキュリティパッチ適用、脆弱性対応の考え方を提示してください。

エ 災害時、大量アクセス時、サイバー攻撃時における継続性確保の考え方を提示してください。

例：CDN、WAF、オートスケール、静的配信、軽量ページ等。

(7) API 連携・将来性拡張

ア CMSのAPI連携のしやすさについて、一般的な考え方を提示してください。

イ 標準API等により、将来的な外部連携を容易にする方法を提示してください。

ウ 追加改修が必要となりやすい場面、標準機能で対応しやすい場面を整理してください。

エ 長期的な運用や将来的な構成見直しを見据え、コンテンツデータ、設定情報、運用情報等を整理された形で管理し、継続的に活用しやすくするための具体策を提示してください。

例：

- ・ 標準機能や標準APIの活用
- ・ コンテンツデータを標準的な形式で出力・活用できる仕組み
- ・ 将来的な制度変更、機能追加、外部連携、運用体制変更等への対応しやすさ

(8) AI活用

ア CMSにおける生成AI活用の可能性を提示してください。

例：ページ作成、要約、校正、アクセシビリティチェック等。

イ 市民向けサービスにおけるサイト内検索等のAI活用の可能性を提示してください。

ウ CMSとAIサービスを連携する際の留意点を提示してください。

- ・ 費用管理
- ・ API利用量
- ・ 個人情報・機密情報

- ・ 誤回答対策
- ・ ログ管理
- ・ 職員による確認プロセス

(9) その他

- ア 次期 JIS 改正への対応の考え方を提示してください。
- イ 他自治体、特に都道府県・政令指定都市・特別区での導入実績があれば提示してください。
- ウ 現在の大規模サイトの CMS 市場における主流構成（主にクラウド利用状況、OSS 活用状況等）について、一般的な傾向を提示してください。
- エ 本市規模の CMS 再構築を検討するうえで、その他留意すべき事項があれば自由に記載してください。

6 その他留意事項

- (1) 本依頼の実施に要する一切の費用は、事業者の負担とします。
- (2) 本依頼の実施はすべて日本語による対応とします。
- (3) 提供された情報及び資料は返却しません。
- (4) 提供された情報及び資料は再構築の方向性を検討するための参考資料として活用します。
- (5) 提供された情報及び資料について、前号の目的の範囲内で、本市職員のほか、本市が委託するコンサルタント等の事業者にも共有する場合があります。共有にあたっては、当該事業者に対して秘密保持義務を課すなど、適切な管理を行います。
- (6) 提供された情報及び資料のうち、機密性が高い情報、営業秘密、公開を希望しない情報等が含まれる場合は、該当箇所及び取扱いに関する希望を明記してください。
- (7) 本市が提示する資料については、本 RFI への回答目的以外には使用しないでください。
- (8) 本依頼の参加をもって、本市が調達を行うことを約束したり、事業者に特別の地位を約束したりするものではありません。また、本依頼を辞退した事業者について不利益に取り扱うことはありません。

7 参考情報

- (1) 現行システムのシステム構成図、性能要件
参加表明事業者に提供する資料に示します。
- (2) 横浜市セキュリティポリシー

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/gyosei-kansa/yokohamadx/kitei/security-policy.html>

以上